関藤藤陰

別名

石川和介

せきとう・とういん　　いしかわ・わすけ

藩校誠之館教授、福山藩儒官

経　歴
生：文化4年（1807年）2月24日、備中国小田郡吉浜村（現岡山県笠岡市吉浜）生まれ
没：明治9年（1876年）12月29日、東京丸山邸において没、享年70歳

文化4年（1807年）2月24日	―	備中国小田郡吉浜村（現岡山県笠岡市吉浜）生まれ	関藤元五郎
文化9年（1812年）	6歳	備中後月郡西方村石川順介の養子となる	石川元五郎
文政3年（1920年）	14歳	笠岡で小寺清先の薫陶を受ける	石川元五郎
文政10年（1827年）	21歳	江戸に遊学	石川淵蔵
文政11年（1828年）	22歳	頼山陽の山陽塾に入門	関五郎
天保5年（1834年）ごろ	27歳	江戸遊学、昌平黌の依田利用に師事	石川淵蔵
天保7年（1836年）ごろ	29歳	江戸麹町、谷出羽守衛昉に寄寓	石川淵蔵
天保12年（1841年）	35歳	郷里備中吉井村へ帰る	石川淵蔵
天保13年（1842年）ごろ	36歳	福山において開塾	石川淵蔵
天保14年（1843年）11月5日	37歳	福山藩の儒官	石川淵蔵
天保15年（1844年）4月	38歳	出府し君側御用掛の任にあたる	石川淵蔵
弘化元年（1844年）5月～11月	38歳	水戸候徳川斉昭の幽閉解除の運動	石川淵蔵
弘化3年（1846年）	40歳	君側御用掛（側用人）兼文学引立役	石川和介
嘉永6年（1853年）6月3日	47歳	浦賀・下田探索	石川和介
安政元年（1854年）	48歳	藩校誠之館の創立	石川和介
安政3年（1856年）5月7日～11月10日	50歳	蝦夷地探査行（第1回）	石川和介
安政4年（1857年）3月～9月	51歳	蝦夷地探査行（第2回）	石川和介
安政4年（1857年）	51歳	正教の侍講	石川和介
万延元年（1860年）	54歳	正方の側用役	石川文兵衛
明治元年（1868年）1月9日	63歳	長州軍福山城攻囲戦の和議を成立させる	石川文兵衛
明治元年（1868年）10月	63歳	執政	石川文兵衛

明治元年（1868年）	63歳	関藤姓に復す	関藤文兵衛
明治2年（1869年）6月	64歳	致仕、隠居	関藤文兵衛
明治5年（1872年）	67歳	東京へ移り、阿部家家政差配	関藤文兵衛
昭和3年（1928年）11月	―	正五位を追贈される	―

生い立ちと学業、業績

本姓は関藤、幼名は元五郎（もとごろう）、名は成章（せいしょう）、字は君達（くんたつ）、通称は淵蔵・和介・文兵衛。藤陰と号した。

関藤藤陰は、備中国小田郡吉浜村（現岡山県笠岡市吉浜）の社家兼医師・関藤政信の第4子として、文化4年（1807年）2月、同地に生まれた。母、父、さらに母親代りの伯母も幼時に亡くなったため、6歳の時に備中国後月（しつき）郡西方村の村医石川順介に引き取られ養子となった。彼が明治元年関藤姓に復するまで「石川淵蔵・石川和介・石川文兵衛」などと呼ばれていたのは、この養家の姓を名乗っていたからである。関鳧翁（せき・ふおう）の弟。

石川氏は藤陰のすぐれた素質を見ぬいて、14歳の時笠岡の兄のところへ帰して自由に学問させることにした。笠岡では主として敬業館において小寺清先の薫陶を受けたが、その逝去を機に笠岡を離れ、文政11年（1828年）、頼山陽の門をたたいた。山陽塾に居ること4年、山陽の厚い信頼を受け、その死に臨んでは執筆中の『日本政記』完成の任をまかされた程であった。

その後さらに10年間の江戸遊学時代を経て、天保12年（1841年）郷里へ帰り、福山において開塾していた天保14年（1843年）秋、阿部正弘（第7代）の老中就任から1ヵ月余り後の11月5日、福山藩の儒官に採用された。命により出府した藤陰は、直ちに「君側御用掛」となり、全力をつくして正弘補佐の任にあたった。例えば水戸候徳川斉昭の幽閉解除の運動、藩校誠之館の創立、ペリー来航にあたっての浦賀・下田探索、2回にわたる蝦夷地および樺太の探査行など、いずれも正弘の頭脳と耳目を代行する働きであった。正弘逝去（安政4年6月17日）の報を聞いたのは、北蝦夷からの帰途、シラオイ会所滞留中であった。

その後阿部正教（第8代）の侍講、阿部正方（第9代）の側用役として幕末動乱期の福山藩をささえた。中でも明治元年（1868年）1月9日の長州軍福山城攻囲戦において、「大義親ヲ滅ス」という考え方にたって藩論を統一したうえで和議を成立させた。城下を戦火から救った藤陰の功績は、特筆されるべきものであった。

明治元年（1868年）5月、広島藩から阿部正桓（第10代）が養嗣子として福山城へ入り、10月には正桓によって藤陰は執政に登用された。明治2年（1869年）6月の版籍奉還に際しては、致仕して隠居した。

明治5年（1872年）、阿部家家政差配の依頼をうけて東京へ移住し、それから4年後の明治9

年（1876年）12月29日、東京の丸山で没した。享年70歳。東京谷中・天王寺墓地に葬る。

明治5年（1872年）1月、福山市本庄町中4丁目に「小阪山墓田碑」を撰んだ。

女婿の関藤成緒が家を継だ。

昭和3年（1928年）11月の御大典に際し、生前の勲功により正五位を追贈された。

藤陰百回忌に当たり昭和52年2月、藤陰の徳を慕う有志が関藤藤陰遺徳顕彰会を結成し、福山市三吉町の元市民図書館の庭に顕彰碑を建立した。

誠之館所蔵品

管理№	氏　名	名　称	制作／発行	日　付
05325	関藤藤陰　書	七言絶句「地形高處」	―	嘉永3年（1850年）
00049	関藤藤陰　画文	巻子「蝦夷探査図絵」	―	安政4年（1857年）
05326	関藤藤陰　書	七言絶句「雙鑑浦図」	―	明治5年（1872年）
04297	伝　関藤藤陰	『福山藩国事関係録記録底本（全4冊の内上一）』	―	―
04584	関藤藤陰　差出	「生長小十郎宛書状」	―	―
07015	関藤藤陰　書	『虔山先生遺墨』	―	―
t0250	関藤藤陰　書	七言絶句「虞芮争田」	―	―
07009	三島中洲 書	七言絶句「水閣招魂」	―	明治24年（1891年）
07022	川路寛堂 書	「徳川斉昭公親書及びその由緒書」	―	明治27年（1894年）
06919	関藤不二男　著	『よしはま物語』	笠岡市立図書館	昭和48年
04286	岡田逸一 著	『関藤藤陰十大功績』	関藤藤陰遺徳顕彰会	昭和49年
03462	志水主計 著	『関藤藤陰　伝記と遺稿』	児島書店	昭和52年
04583	森田雅一 著	『関藤藤陰小伝』（高梁川第48号所収）	―	平成2年
05201	栗谷川虹　著	『第4回「岡山・吉備の国」文学賞長編小説部門受賞作品　「備中の二人」』	岡山県郷土文化財団	平成10年
04120	栗谷川虹　著	『茅原の瓜　小説関藤藤陰伝・青年時代』	作品社	平成16年
04980	栗谷川虹　著	『四方の波　小説関藤藤陰伝・壮年時代』	作品社	平成20年
06906	見延典子　著	『敗れざる幕末（小説：福山藩儒者・関藤藤陰）』	徳間書店	平成24年
z0810	―	「関藤藤陰先生ご愛用品」	―	―

出典1:『誠之館記念館所蔵品図録』、65頁、福山誠之館同窓会編刊、平成5年5月23日
出典2:『誠之館百三十年史(上巻)』、20・23・61・62・75・79・107・113・154・189・567・827 頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日
出典3:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、85頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日
出典4:『福山藩の文人誌』、100頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日
出典5:『福山藩の教育と沿革史』、154頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日
出典6:『備後備中先覚者名鑑 郷土を創った人々』、24頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和36年8月
出典7:『高梁川(第48号)』、2・3頁、「関藤藤陰小伝」、森田雅一、平成2年12月
出典8:『明治維新人名辞典』、544頁、日本歴史学会編、吉川弘文館刊、昭和56年9月10日
出典9:『福山学生会雑誌(第67号)』、目次頁、福山学生会事務所編刊、昭和3年12月30日
出典10:『福山学生会雑誌(第68号)』、2頁、「関藤藤陰先生の傳」、和田英松、福山学生会事務所編刊、昭和4年7月15日
出典11:『今昔物語 福山の歴史(上巻)』、218頁、村上正名著、歴史図書社刊、昭和53年11月20日
出典12:『福山の今昔』、168頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日
出典13:『福山のいしぶみ散歩』、67頁、「維新の功業 関藤藤陰」、福山市文化財協会刊、1993年5月12日
出典14:『福山のいしぶみ散歩』、133頁、「小阪山墓田碑」、福山市文化財協会刊、1993年5月12日

関連情報1:『福山学生会雑誌(第48号)』、附26、「藤陰関藤先生碑」、阪谷素、福山学生会事務所編刊、大正5年7月27日
関連情報2:『福山学生会雑誌(第50号)』、附8、「菅自牧齋先生墓碣銘」、関藤成章、福山学生会事務所編刊、大正6年1月1日

2005年3月30日更新:出典●2005年12月16日更新:所蔵品●2006年3月14日更新:所蔵品●2006年4月20日更新:所蔵品●2007年1月18日更新:経歴・本文・出典●2007年4月20日更新:本文●2007年6月28日更新:経歴・出典●2007年11月2日更新:誠之館所蔵品●2008年4月8日更新:本文●2008年7月10日更新:経歴・本文・出典●2008年7月25日更新:関連情報●2008年7月31日更新:関連情報●2008年8月6日更新:本文●2008年8月27日更新:誠之館所蔵品●2008年11月17日更新:関藤藤陰著書・誠之館所蔵品●2009年2月16日更新:誠之館所蔵品●2009年12月18日更新:誠之館所蔵品●2010年2月19日更新:誠之館所蔵品●2010年3月30日更新:写真削除・探しています・出典●2010年6月2日更新:誠之館所蔵品●2012年2月15日更新:本文・出典●2012年2月17日更新:本文・出典●2012年2月28日更新:本文●2012年6月20日更新:誠之館所蔵品●2014年3月20日更新:探しています・関連情報●2014年8月1日更新:誠之館所蔵品●2014年9月4日更新:誠之館所蔵品●2015年2月10日更新:誠之館所蔵品●2015年7月23日更新:誠之館所蔵品●2016年2月9日更新:写真●